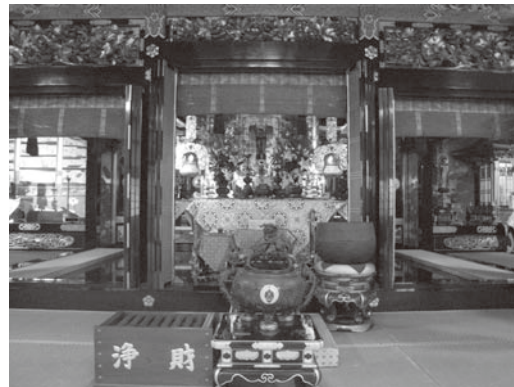


明教寺

島泉の住宅街の一角に、静かに佇む古い歴史を持つ寺がある。

建立からおよそ1400年。何度かの兵火と、火事にも見舞われながらも、その地にあり続けた寺は、高鷲山鳳凰堂「明教寺」。

古くは、「鳳凰寺」と呼ばれたその寺の建立は、女帝・推古天皇の治世にまでさかのぼる。598年、推古天皇が見た夢は、白衣の老婦が鳳凰に乗って舞い降りる夢だった。その老婦は天皇に、「志那津川（しなずがわ）の周辺は、高鷲の井がこの上なくきよらかでけがれの無い特別な地域なので、そこに寺を建立すれば、世の中は安穏になり、住みやすくなるでしょう。私は高鷲の地主でこれからつくられる寺をまもる者です」と告げたのだと言う。推古天皇からその夢を聞いた聖徳太子は、高鷲の地に「鳳凰寺」を建立した。



志那津川とは現在の東除川の事である。東除川は16～17世紀前半に作られた人口の水路だが、それ以前からこの地に流れていた川を志那津川という。明教寺の住職の姓も、ここに由来して、不死川（しなずがわ）さんと言うのだそうだ。



また、島泉の地名の由来に、こんな話がある。

764年、孝謙天皇が「鳳凰寺」に行幸した折、随員の官人らが志那津川の中の島を掘ると、清水が湧き出た。その事から、この地を島泉と呼ぶようになったという。この時、孝謙天皇により、「鳳凰寺」は現在の名前である「明教寺」に改められた。



1615年、大阪夏の陣で焼失した明教寺はその後再建され、本堂は1984年の大修理を経て今に至る。常時開かれているという本堂の中は静寂に満ちており、その欄間は江戸時代から変わらず使われているものだ。内陣に安置された阿弥陀如来像の上の天井には、鳳凰寺の名に相応しく極彩色の鳳凰の絵が描かれており、またその壁にも鳳凰が羽ばたいている。しん、とした空気は、どこか現代の騒々しさから隔離されたようで心が落ち着く。親鸞上人木像（室町時代）羽曳野市の中でも古い歴史を持つ地域である高鷲地区。そしてその場所で歴史をともに歩んできた明教寺。足を伸ばして、その空気を肌感じてみるのもいいだろう。

（歴史記事：寺伝より抜粋）

また、明教寺では仏前結婚式を挙げることもでき、子どもたちを集めた餅つき大会や毎年4月に落語会、11月に法要の最後の行事としてジャズコンサート、除夜の鐘つきなどのイベントを通して、地域に開けたお寺として親しまれている。

高鷲山鳳凰堂明教寺 羽曳野市島泉2-2-22 ホームページアドレス：<http://www.myokyoji.net/>

「春の行政相談週間」 行政に対する困りごとは、総務省近畿管区行政評価局または行政相談委員へ

5月18日(月)から24日(日)の1週間は総務省の「春の行政相談週間」です。国の仕事に関する要望・苦情・意見について、総務省近畿管区行政評価局（電話：0570-090110）または行政相談委員（本市は以下の方が選任されています）にご相談ください。行政相談委員は総務省が委嘱した民間の有識者で、無報酬で相談に応じています。

行政相談委員が選任されました

- 平成21年4月1日付けで総務大臣から委嘱状が交付されました。
- 再任で、八尾芳文さん、奥野展三さんが選任されました。
- 奥野展三（飛鳥711 ☎956-5877）
- 八尾芳文（古市4-10-17 ☎956-8969）

●行政相談は毎月第2水曜日（13時～15時）に羽曳野市役所で開催していますが、行政相談委員の自宅で相談に応じる●他、電話等でも相談できます。

お問合せ先

- 総務省 近畿管区行政評価局行政相談課
- 電話：06-6941-8358

住宅用ソーラーシステム補助制度のご案内

●太陽光発電の普及のために、国の制度で一般住宅●の太陽光発電システム設置への補助制度が設けられて●います。太陽光発電は、地球温暖化防止のためにも●その普及が期待されています。ぜひご利用ください●。

●**募集期間**：2009年4月1日～2010年1月29日

●**補助金額**：太陽電池モジュールの公称最大出力1kW●あたり7万円

●**対象者**：自ら居住する住宅にシステムを新たに設置●する個人で、電灯契約者となる方

●**受付窓口**：財団法人 大阪府みどり公社●（☎06-6266-1311）など

●対象システムの詳細や申請方法等については、●大阪府みどり公社または太陽光発電普及拡大センタ●ー（☎043-239-6200）にお問い合わせください。●また、ウェブサイト <http://www.j-pec.or.jp> でもご●ご覧いただけます。